第１８７号
発行日　平成１９年2月１７日
発行所　八王子の碁を楽しむ活きいき連合
住　所　南大沢５－９－１０－６０１
ＴＥＬ（０４２）６７５－１５８１
発行人　　竹 島　 正 義
編集者　　渡 辺　己 三 男

碁楽連の目的

碁楽連は、八王子市内に居住する高年者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるようにその機会を提供し、高年者の福祉の増進に寄与することを目的とする。

http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/

新年度へ向けての準備進む

明 18 日、今年度諸大会の最後を飾る碁楽連タイトル大会が開かれ、名人、王座および天狗が決まります。この後は、4 月の新年度活きいき地区大会まで行事はひと休みとなりますが、役員にとっては一番忙しい時期でもあります。

今年度の決算を済ませるとともに新年度の計画と予算を組まなければなりません。新年度早々に決めておかなければならない問題を簡単に説明しましょう。

まず、新しく碁楽連の仕事となる市民囲碁大会についてみますと、今まで高年者の参加が思わしくなかったような気がします。せっかく碁楽連が市のお手伝いをするのですから、寿同好会員が進んで参加したくなるような―たとえば高年者と若年者を分けるとか―仕組みを作る必要があるのではないかと思っております。また、11 月の市民大会と重なるのを避けるため 3 段以上の碁楽連大会は 10 月実施にせざるを得ないでしょう。

次に、活きいき地区大会の非会員の扱いです。秋の碁楽連大会は会員しか参加できませんが、地区大会は非会員も参加でき、しかも近年その数が増えてきております。今まで、会員、非会員の区別なく参加費を 700 円としてきましたが、大会に会員の毎月の会費が投入されていることを考えると、多少の差はつけざるを得ないと考えられます。それが、また囲碁愛好者の入会を促すことにつながるかも知れません。目下地区寿同好会のアンケートを取っているところですので、その結果により 4 月の総会で方向が定まるでしょう。

最後に、「地区団体対抗」ですが、19 年度からは、石川同好会が加わり全同好会参加の１１チームとなる見込みです。このため組み合わせを検討しなければならないのはもちろんですが、会員数の多少により、出場希望者を調整するのに苦労する同好会もあれば、出場者探しに苦労する同好会もあります。これらの問題を直ちに完全に解決することは困難ですが、多少でも緩和する方向を見出したいと考えているところです。

いずれにしても新年度まで残されたひと月余の間、理事会一同一生懸命努力してまいります。

１９年度定例総会の予告

日　　時　　平成 19 年 4 月 15 日（日）　午前 9 時 15 分～11 時 30 分
会　　場　　東浅川保健福祉センター４階第５集会室
　　（東浅川 551-1、電話：667-1331）
出席予定者　　碁楽連会長、碁楽連理事、各地区寿囲碁同好会長ほか
議　　題　　１８年度決算報告、１９年度事業計画と予算、規約改正ほか

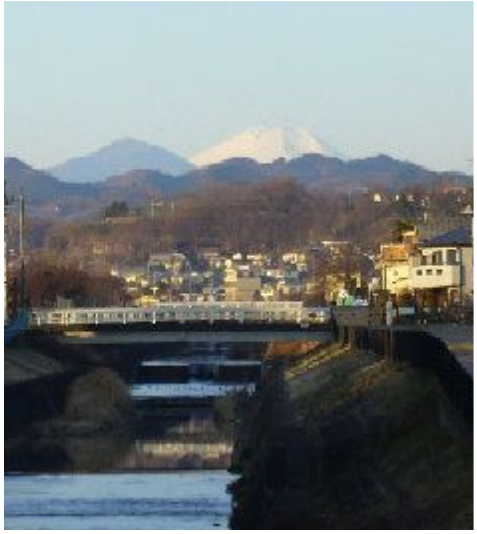
第17回活きいき囲碁　淺川大会のご案内

日　　時　　平成 19 年 4 月 1 日（日）　受付午前 9 時 00 分～9 時 30 分
会　　場　　横山南市民センター（椚田町１３７－３　電話６６６－００３１
主　　催　　淺川寿囲碁同好会（会長 堀口 哲　高尾町 1626 電話 661-8428）
後　　援　　八王子市、八王子市教育委員会
参加資格　　八王子市に在住している 60 歳以上で 10 級以上の囲碁愛好者
参 加 費　　７００円（弁当代を含む）
競技方法　　３ないし４のクラス別に行い入賞者に賞品を進呈します。
申込み先　　会長代理 望月成一　電話６６３－９７５８
注意事項　　①自家用車でのご来場はなるべくご遠慮ください。
　　②失格にならないように定刻においでください。

地区同好会めぐり（第１０回・由井）

序説　　由井の展望

２月４日の立春は例年になく暖かい日であった。家を出て国道１６号線と湯殿川とが交差する住吉橋へ向かう。八王子の五つの小河川は右の手のひらを紙面に合わせたときの５本指のように流れる。北から南へ見ていくと、小指にあたるのが谷地川、薬指の川口川、つぎに北浅川、南淺川とつづき、親指にあたり最も南に位置するのが湯殿川である（谷地川は直接多摩川に合流するが、他の四つの川は淺川となったのちに多摩川につながる）。由井地区のほとんどを流域とする湯殿川は川幅２５ｍ延長６kmの一級河川である。名の由来を調べてみた。源義家の請に応じ、横山党（１２００年）の横山氏が奥州安部氏の討伐の折、出羽三山の一つ湯殿山の大日如来に祈祷し勝利を得たのにちなみ、その名をつけたと言われている。当時この付近一帯は牧場で馬を飼養し、京、鎌倉などに送り出していた模様である。



湯殿川と富士山（由井第三小学校裏より）

住吉橋から上流の西へ２００ｍほど足を進めたところで長い望遠レンズを装備した３人のカメラマンに出会った。美しいカワセミを撮りにきたとのことである。鳥の名前は知っていたが、馬齢を重ねたこの歳まで観察したのは初めてであった。他にキセキレイ、コサギ、カワウなどが観察できると教わった。おまけに一人の方からカワセミのカラー写真を頂戴し家の卓上に大切に飾った。このあたりは片倉城址の北側で芝生面が広がり、桜の花とともに心を癒してくれる場所である。さらに上流へ歩を進める。河川の両岸に沿って遊歩道が直線的に整備され真西の空には、好天と澄んだ環境の故か富士山がくっきり見え、その左手には丹沢山塊が連なる。河川内には数百匹と思える鯉の姿が目にとまり数羽の鴨と共存していた。水も澄みインフラの整備と住民意識の高揚が推察された。散歩やジョギングには最適な場所であると改めて納得できた。小比企の由井第三小学校裏を通り小比企駐在所付近を折り返し下流に向かい右岸を帰路とした。山裾までの畑地で農作業をやる人、散歩する人、ゲートボールをやる人、河川敷の残地で遊ぶ人などのひとびとの姿を眺めがら先ほどの片倉城址まで戻った。

片倉城跡公園の水車

ここは室町時代の長井氏、大石氏の居城で現在は片倉城跡公園と呼ばれ斜面と本丸、二の丸、住吉神社、池、水車小屋を合わせ一万５千坪を有する。城の跡地からは高尾山の展望がよい。子供の遊び場にも好適で、可憐なカタクリが開花する３月下旬と桜のお花見の時期には遠方からの多勢の来訪者も加わり、賑わいを見せる。住吉神社は 1372 年城主長

井大善が城の鎮守神として大坂住吉神社より勧請したという。住吉橋から下流淺川までの１ｋｍは沿線の北野街道の拡幅と区画整理が進行しており、真新しい住宅が建ち並ぶ。

由井地区は南北に走る１６号線を境に西は小比企に接し北は緑町、片倉町があり東西に京王線が走り緑の冴える自然環境に恵まれた盆地と、北野台・片倉台の団地から形成されている。ここ10数年の開発と発展は素晴らしい。平成元年に計画された、みなみ野ニュータウンもほぼ完成し、東京工科大学、日本文化大学など、宅造化と学園都市化が進められた。スーパーを除いての企業がまったく無いのも特徴である。

由井地区だより

さて、碁楽連としての本題が遅れ序説が長くなったことをお詫びする。

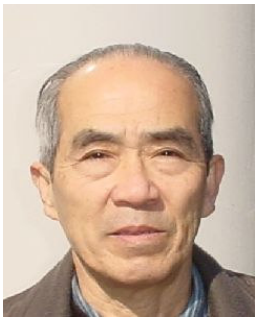
碁楽連・由井寿囲碁同好会の会員数は現在２９名で地区平均より若干少なめである。増える要素は多分にあり碁楽連の啓蒙と発展に因り地区で開催する活きいき大会の非会員数を大いに展ばし受け入れ態勢を作っていきたい。今年度の由井地区は昇段者ブームで６名の方々が昇段され、団体戦でも辛くも優勝の栄に浴したいへん喜ばしいことである。　囲碁もただ単に打つだけでなく自分なりの目標管理を行い昇段級予備軍となって来期の奮闘を期待したい。

片倉城跡公園の彫刻

由井寿囲碁同好会は会長を含む３名の役員と幹事４名で運営にあたっているが、本部の担当者を含め非常に良く活動して頂いている。特に活きいき大会では１７年度参加者の４割増という盛会であった。参加者内訳は由井寿囲碁同好会員２２名、他地区会員１７名、非会員１４名、参加者総数５３名で本部及び由木地区同好会の役員の方々に紙面を借りて厚く御礼申し上げる。

参考までに由井寿囲碁同好会としての定例の囲碁会は無い。由井地区においては、碁楽連発足以前から片倉囲碁同好会、片倉台囲碁クラブなど活発な碁会活動が続けられている。由井寿囲碁同好会の会員はそれぞれの碁会に参加して活動している状況である。したがって名人戦などタイトル囲碁大会への出場者について団体戦の成績優秀者から会長、役員および幹事が人選を行っている。上記は他地区との違いについて参考までに申し述べた。おわりに本部の皆様のご苦労を感謝するとともに会員の皆様のご健勝を祈願し筆を置く。

養田 高尾 会長


小野 勝彦 会長代理

山崎 修路 副会長

投稿

文武両道のすすめ

浅川寿囲碁同好会　池 口 隆 久

碁老連に加入したころは、「ボケ防止のための碁老連」といわれていて、なんとも嫌だった。研修会にも加入し、そこで役員も経験したりするうちに、あまりこの名称も気にならなくなった。むしろ反対に、「なんだ碁老連か」と馬鹿にしたり碁老連の悪口をいう人がいると、反感を覚えてしまう。面と向かって食ってかかるのも大人気ないので、私は黙ってその人から遠ざかることにしている。「君子は争わず」といいますからね。

現在は、「碁楽連」と名称変更したが、内容は同じである。私にとって、名称は気にしないことには変わりはない。

さて、頭の体操としての碁を「文」とするなら、身体の体操を「武」と考え、この両方をするのが、私たち高齢者には必要なのではあるまいか。少なくとも、一日中碁盤に向かって、指の運動をするのは私には向かない。（先日、孫娘に「おじいちゃんは碁をやっているから、頭を使っているのだよ」といったら、「チガウヨ、指ノ運動シテルンダヨ」と孫が言う。面白い発想だと思えた。）

陵南弓道場にて

私は、ふとしたことから弓道を覚え、30年もやっている。弓道について述べてみよう。弓道は、運動量は少ないが、全身運動であることと、高齢になっても若い人と、対等に練習できる点が良い。練習の継続は必要であるが、力はそれほど必要とはしない。女性が熱心に練習するのも、なるほどとうなずける。弓暦も長くなると、技ばかりでなく、精神力も大事だとわかってくる。技が五分、心（精神力）が五分といっても言い過ぎではあるまい。見学者がいるときなどには、このことが良くわかる。的に当ててやろうとか、格好良く引いてほめられたいなどと思ったら（色気を出したら）、きっと失敗する。そういうのを「まだ若い」という。

弓を手にしたら、無になれと教えられてきた。これはとても難しい。友人はいつか言った、「無にならなければいけないと思うからいけないんだ。空になればいいんだ」と。つまり、目や耳からどんな刺激を受けても、それによって心を動かされないような訓練をすればよいのだという。だがこれは難しい。ちょっとやそこらではできない。私は今でもできないでいる。弓に行き詰まりを覚えたころ、別の友人が、高尾山健康登山をしているよといった。私は、若いころから登山には親しんできたので、興味を覚えた。山岳部と同行して、南北アルプスには良く出かけた。特に、南アルプスは、鋸岳を除いて、全山訪れた。聖、赤石、塩見、北、農鳥、仙丈、駒など、今でも山容・山小屋・水場などが目に浮かんでくる。そのような思い出に浸っていてはいけない。居間の格言カレンダーが「現在に全力を尽くそう過去はもうない未来はまだない」といっている。50 歳で山はぴたりと止めていたのは、自分の体力の減退を承知し、無理はいけないと自覚していたからだが、高尾山健康登山の話を聞いて、俄然目覚めてしまったようだ。2 ヶ月も高尾山に登っているうちに、自分のからだの変化に気付いた。まず、中性脂肪が 348 から 145 に下がった。体重は 69 から 63kg になり体脂肪率が１９から１５％になった。こうなると、どこかのテレビ局で放映していた納豆ダイエットより、ずっと効果があるのかな。断っておきますが、これは、私だけの場合ですからほかの人にあてはまるかどうかはわからないです。初めは、週 1～2 回と決めていたが、面白くなってしまい、2 ヶ月で 25 回も高尾山に登ってしまった。薬王院で大きな朱の「高尾山健康登山」の印を 100 円で押してもらうのも楽しみでもあるが、何よりも汗を流して登るということ自体に価値を見出しているのではないかと自己分析している。したがって、私の充実した一日の日課は、弓道―囲碁―高尾山となっている。

陵南弓道場にて

ギリシャを旅して

碁楽連会長　竹 島 正 義

アクロポリスの丘からアテネ市街の眺め

この１０数年来、毎年一度は夫婦で海外への旅を楽しんできた。１週間以上もプライベートの旅をする時間的な余裕ができてきたことと、やはり少しでも見聞を広めたいという気持ちがあったことからだろう。ほぼ３０カ国を歩いて、物理的なことばかりでなくそれぞれの国民性などさまざまな事柄を肌で感じてきたことは、なんとなく視野が広がる思いがする。

昨年は、１１月半ばにギリシャへのツアーに参加した。ギリシャは、日本の３分の１ほどの国土に約１０分の１の人口である。首都アテネに全国の３割以上の人たちが暮らしているという。全人口の約１割という東京よりはるかに大きな集中度である。主に東のエーゲ海に散在している島の数がおよそ３，０００というから、大きな観光資源である反面、行政も手のかかることであろう。アテネの気温は東京とほぼ同じように感じられたが、雨量は少ないようだ。国土全体に川が少ない。おそらく、雨も、降るたび地中に吸収されてしまい、川となって流れる量が少ないのではないかと察せられる。

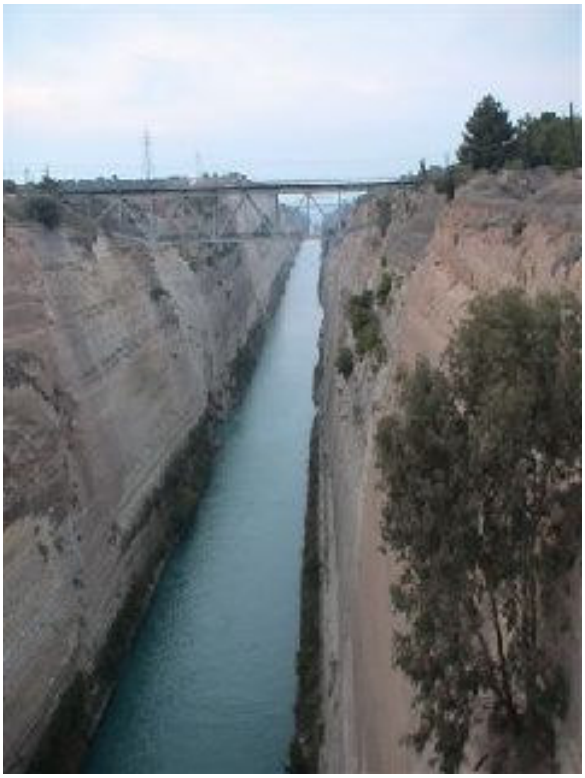
古代の野外劇場（修復して今も使われている）

われわれ都市に生活する者にとって、やはり気になるのはアテネの街である。３４０万の人たちが暮らすだけに、市街地は、超高層の建物はほとんど見かけなかったが、かなり大きく交通も過密である。細網道路は、ほとんど一方通行で、その両側に駐車するから車は中央部を１台ずつしか走ることができない。駐車場はほとんど見かけることはなく、埃だらけの廃車寸前と思われるような車が平然

と車道に鎮座している。聞けば、路上駐車ＯＫとのことである。国産車はなく、すべて輸入車と聞いた。日本車は、ざっと見たところ２５％前後だろうか、トヨタのタクシーが多いのは燃費のせいだろうか。桑の木が街路樹として植えられているのは面白い。養蚕が盛んなようだからと、頷ける。

ギリシャといえば、やはり遺跡の国である。アテネの市街地にあるアクロポリスの神殿と周辺の野外劇場などの施設、古代オリンピックの開催されたオリンピアの遺跡など古代の歴史を物語る多彩な遺跡には本当に驚くばかりである。日本ではおそらく穴居生活をしていたであろう 2,500 年もの昔、地上に 10 メートルもの石柱を立て、しかも人物像など豊かな装飾を施した建造物を建てた土木、建築の技術、そして今なお夏の演劇などに使用されている野外劇場などは、ローマのコロッセオなどとともにヨーロッパの技術の先進性を物語るものだろう。しかし、さすがに世紀以前のものが多いだけに、あるいは戦火により、あるいは地震などにより地上のものは失われたものが少なくないのは残念なことであった。　もうひとつ、世界遺産にもなっているメテオラの修道院は数百メートルの一枚岩かと思われるような垂直な奇岩の頂上に立つ。かつて、宗教的な迫害を逃れるために人間を寄せ付けない山上に修道所を建て修行に励んだということである。今でこそ簡単に山上に立つことができるものの、1,000 年の昔の修道者の苦労を思うと、その熱烈な求道の心に感動を覚えざるを得ない。

最後に日常生活の話。南欧人は、ヨーロッパ人としてはやや小柄なようではあるけれども、東洋人よりは大柄なだけに、出される食事の量は多い。しかし、味付けはどこへ行っても雑な印象を受ける。飲料水は、ガイドの薦めるままにミネラルを飲みとおしたが、時折口にした水道水は、私の口に合って結構おいしく感じたし、問題はなかった。東南アジアの水道と違って、危険なわけではないので、神経質になる必要はなさそうだ。街中の八百屋、果物屋の商品を見ると､他の国々と同じように、日本では自家用にしかならないような粗末な物を山積みにして売っている。りんごを磨いて店頭に並べるという日本の売り方が異常なのであろうか？


アテネとペロポネソス半島を結ぶ陸路を横断する運河

海外への旅行は、国内旅行と違った楽しみが多いが、加齢とともにやはり健康状態の持続という点で不安を伴うことがある。今度のツアーでもバス酔いで不調

を訴える人もいた。いつまで続けられるか体力維持にがんばりたいものである。

1月の理事会報告

２７日に開かれました。主な事項は次のとおりです。

１　タイトル大会（2月１８日）の準備について
（1）　大会出場者の確認
（2）　大会役員の担当業務その他の準備、打ち合わせを行った。

２　平成１９年度地区団体対抗囲碁会の対戦方法（来年度から石川同好会が出場することを前提とする。）
案　１　対戦数５回のところ、出場チーム１１中会員数の少ない同好会（石川、中野、由木、長房、由井）は、４回出場とする。順位は勝率で決める。
２　会員数が少ない同好会（たとえば石川と長房、中野と由木）をそれぞれまとめて１チームとする。
対象となる同好会の意見を聞いて決めることとした。

３　活きいき大会における非会員の扱いについて
非会員の参加者が増加する傾向にある（１８年度延べ８２名）が、参加費用が毎月会費負担をしている会員と同額であるのは納得できがたいとの意見があるため、その参加費を８００円ないし１，０００円に増額しようとするもの（会員は７００円）
各同好会のアンケートをとることとした。

４　市民囲碁大会（１１月３日）と碁楽連大会との日程等について意見交換
（囲碁連盟の坂上副会長と渕上幹事長の出席を求めた。）
（1）　碁楽連大会を１０月と１２月にする（１２月の１回にまとめることは困難）。
（2）　市民囲碁大会の会場は、昨年５月に市民会館とすることに決定済み
（3）　碁楽連会員が参加しやすくするため高年者と若年者に分けるかどうかは、前回の高年参加者の意見を徴して決める。
（4）　参加者の住所、氏名を事前または当日受付時に把握する。
（5）　上部団体である文化連盟に理事として派遣するメンバーを早急に決定する必要があるが、初めての事業なので、従前囲碁連盟から派遣されており、また、碁楽連のメンバーでもある渕上和男氏に当面お願いすることとした。

編集後記

前号のこの欄で「今年は八王子で雪が降るのでしょうか？」と書きましたが、いまだに降りません。２月９日から１２日まで苗場へ行って来ましたが、三国峠も雪がなく雨が降っていました。１１日に待望の雪が降りましたが、道路の積雪とはならずに終わりました。本当に暖かいのですね。

淺川の池口さん高尾山へ２ヶ月に２５回とはすごいですね。私もたまに登るのですが、とてもとても・・・。少しは見習いたいと思います。

理事会も任期終了まであと少し、ラストスパートをかけておりますのでよろしくご支援お願いします。